



日程

2019.2/20 水

時間

18:00~19:30

場所

関西医科大学 学舎2階 第2講義室
〒573-1010 枚方市新町2-5-1 (がんプロ事務局)

対象

医師・看護師・がんプロ院生・学部生・薬剤師・
行政関係の方・遺伝について御関心がある方・
事務・秘書の方
患者さんやそのご家族もご参加頂けます

※男性もご参加頂けます



総合司会

関西医科大学 副学長/内科学第一講座 教授
本学がんプロ プロジェクトリーダー
野村昌作先生

いよいよ始まった がんの遺伝子検査と治療 乳がん・子宮がん・卵巣がん

講演
1



遺伝カウンセリングは必要!?

関西医科大学 臨床病理学講座
助教 (遺伝カウンセラー)
佐藤 智佳 先生

講演
2



遺伝性乳がん診療における 取り組みについて

関西医科大学 外科学講座
助教
矢内 洋次 先生

講演
3



遺伝情報を考慮した 婦人科がん診療について

関西医科大学 産科学婦人科学講座
診療教授
北 正人 先生

参加費無料
事前申込不要

お申込み・お問い合わせ

関西医科大学 がんプロ事務局

E-mail: ganpro@hirakata.kmu.ac.jp
Tel:072-804-2298 (内線2223)

講演の概要

遺伝カウンセリングは必要！？

関西医科大学 臨床病理学講座 助教

遺伝カウンセラー

佐藤 智佳 先生

がんの5～10%は遺伝性と言われています。がんゲノム医療の進歩に伴い、「遺伝カウンセリング」や「遺伝性腫瘍への対応」という単語を目にすることも多くなってきました。では、なぜ遺伝カウンセリングが必要なのでしょう。患者・家族、医療者双方が遺伝学的情報を適切かつ有効に活用できることを目的としていますが、遺伝性の場合には患者本人のみならず、血縁者も医療の対象となってきます。そこで、良好なコミュニケーションを通して、倫理的配慮、遺伝医学的な情報提供を行いながら患者・家族が十分に理解して適応できるよう支援することが遺伝カウンセリングの役割とされています。遺伝カウンセリングの担い手としての「認定遺伝カウンセラー」の現状をお伝えし、遺伝カウンセリングを活用していただきたいと考えています。

遺伝性乳がん診療における取り組みについて

関西医科大学 外科学講座 助教

矢内 洋次 先生

遺伝子検査で乳がんの発症リスクの高い人が計画的ながん検診を受けたり、予防的な治療を受けることは、医療としてすで実践されています。そこで、「乳がんを発症していない人で遺伝子変異陽性の場合の対応」、「すでに乳がんを発症している人で遺伝子変異陽性の場合の対応」、「乳がんにおけるPARP阻害剤の承認による診療の変化」などに関して、お話しさせていただきます。

遺伝情報を考慮した婦人科がん診療について

関西医科大学 産科学婦人科学講座 診療教授

北 正人 先生

婦人科がん(子宮頸がん・体がん、卵巣がんなど)を、より最適に治療するために、遺伝子検査がいよいよ行われるようになりました。遺伝子検査はこれまでの臨床の現場を大きく変える可能性があります。本講演では遺伝子検査で何が変わるのか、何に注意すべきかを解説します。